

科学技術  
・大學

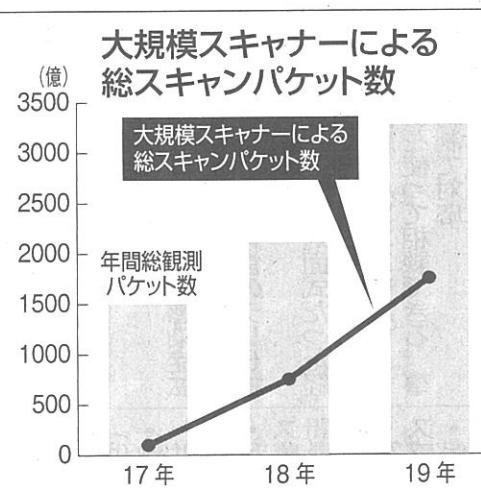


新型コロナウイルスの発生により世界が変わった。学校は休校になり、人々の行動は制限を受け、社会の一部は分断を余儀なくされている。一方で、ソーシャルメディアをはじめとするインターネット

リセギエリティ研究所・サイバー  
リティ研究室 上席研究技術員 久保  
日本窓口CSIRTであるJPCERTコー  
ディネーションセンターで脆弱性情報の分析や流  
通業務に携わったのち、17年10月にNICT入所。  
NICTER解析チームのリーダーを務める。

— 1 —

ネットワーク  
スキヤン  
**機器の不法侵入急増**



このような大規模不ツトワークスキャンを誰が行っているのか、ほとんどの場合は不明だ。ただ、何者かが日々インターネット全体を調査し、サイバー攻撃を行っているのが現実であり、対策が必須なのは言うまでもない。（火曜日に掲載）

情報通信研究機構

# NICT 先端研究

143

トが支える技術は、人と人をつなげ、人と社会のつながりを支えている。

インターネットを通じてつながるのは人間だけではない。新聞やニュースで IoT（モノのインターネット）という言葉を最近よく耳にするが、あらゆるモノがインターネット

に接続する社会が実現しつつある。そして多くのサイバー攻撃が発生していることが新聞やメディアを通じて日々報じられていく。規模に観測・分析する。

NICTERプロ  
クトを推進してい  
ダーカネット観測  
ばれる仕組みを用  
ことで、インター  
トにつながったさ  
まな機器が不正ア  
ラム（マルウエア）  
感染した結果、さ  
る感染を広げよう  
撃をバラまく様子  
を観測することが  
る

ジエる。インターネットにつながる機器にはIPアドレスと呼ばれるインネットアーネット上のいわばらまざまざと攻撃が割り当てられている。IPアドレスは約43億個あり世界各国に割り当てられている。膨大な数に思えるかも知れないが、コンピューターのプログラムを

用いれば容易に各IPアドレスにアクセスし、そこに機器が存在するかどうかを、またその種類などを調べることができる。このようないかを調べることによって、さらに踏み込んで、機器への不法侵入を可能にする脆弱性と呼ばれる欠陥（いわばちぎりのかかつていない事実や、壊れたドア）ができる。このような調査はネットワークスキャナなどと呼ばれる。調査の結果はいわば、どの住所に不法侵入可能か

家が存在するかの一覧である。

ネットワークスキヤンはこれまでにも研究者などにより行われてきたが、近年件数が急激に増加した。2011年には観測全体の7%に過ぎなかつたが、18年には35%に、19年には全体の53%にも及んだ。